



宣誓書を読み上げる児童会副会長の阪口貴明君(中央)(奥春別小)

## 貴重な自然を次代へ

川小・奥小が自然の番人宣言

自然の番人宣言認定式が11月4日、川湯小学校(中嶋治代校長)で行われました。認定式では、児童会長の渋谷瑛一君が宣誓書を読み上げ、釧路管内市町村『自然の番人宣言』推進委員会からの認定証が吉備津副町長から手渡されました。

自然の番人宣言は、廃棄物の不法投棄やポイ捨てなどから貴重な自然環境を守り、将来に継承していくことを目的に、2006年に管内全8市町村共同で行っています。この趣旨に賛同し、同宣言を行っている事業所や団体は町内で17あり、川湯小学校が18番目となります。今後は宣言に基づき、自然環境保全の取り組みを学校ぐるみで行っていきます。

また11月8日には、奥春別小学校(蝦名尚志校長)も同宣言を行いました。



認定証を受け取る渋谷君(左)(川湯小)

## 名称が「そらの森」に決定

シーニックバイウェイが  
飛行場跡地で森づくり



植樹を行ったメンバー

- ▼入賞
  - 「未来への森 摩周」  
近藤佑哉(弟子屈町)
  - 「ゆわえの森」朝倉修(札幌市)
  - 「ぴこんの森」樋口未歩(鳥取県)



記念植樹の様子

弟子屈と中標津、釧路湿原、阿寒にまたがる「釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ」(桐木茂雄会長)が旧弟子屈町飛行場跡地で整備を進めている森の名称が「そらの森」に決まりました。

長く親しまれる森づくりのために名称を全国から募ったもので、34件の応募がありました。特賞に選ばれたのは愛知県の小寺光雄さん(65歳)で名づけの理由は「飛行場跡地の森から夢は世界の空に広がります。とつても楽しい森になるように」とのことです。

名称が決まった記念の植樹会が10月15日、そらの森で行われました。植樹会には、町内外から約30人が参加。あいにくの雨模様の中、ハルニレやミズナラ、カツラ、アカエゾマツなど220本の苗木を植樹しました。また、苗畑にドングリヤ

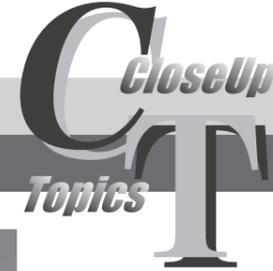
クルミを植えて、苗木作りも行いました。特賞以外の入賞者は次のとおりです。(敬称略)

### 町の話



### 町の話

### 町の話



### 町の話

## みんなで頑張りました

摩周丘幼稚園・おひさま保育園お遊戯会

摩周丘幼稚園(鈴木幸栄園長)のお遊戯会が11月6日、摩周観光文化センターで行われました。

園児は、2〜5歳児のクラスごとに歌や楽器演奏、踊り、劇などを披露。この日のために一生懸命練習してきた成果を、元気いっぱい舞台上で発表していました。カメラやビデオなどを手にして集まった保護者などからは、たくさんの拍手が贈られました。

また同日、おひさま保育園(清水節子園長)の親子の集いが、同園で行われました。

0〜5歳児がそれぞれ、各クラスのテーマに沿ったお遊戯や劇などを披露。保護者にとっては、園生活が垣間見れる貴重な場となりました。また、保護者や保育士も趣向を凝らした出し物を行い、お父さんやお母さん、先生たちの活躍に園児は大喜びでした。



摩周丘幼稚園のお遊戯会(右)とおひさま保育園の親子の集い(左)



芸能発表会の様子(右下)



10月22・23の両日は、公民館で町民茶会が行われ、訪れた方にお茶が振る舞われました。

10月30日には、摩周観光文化センターで、芸能発表会が行われました。23の団体が参加し、吹奏楽や舞踊、合唱などをそれぞれ披露。訪れた皆さんから、盛んな拍手が贈られていました。

## 日ごろの活動の成果を披露

第62回弟子屈町総合文化祭

第62回弟子屈町総合文化祭が、10月9日から11月5日にかけて、摩周観光文化センターや公民館などで開催されました。

10月9日には摩周湖農協で、文化祭の幕開けとなるダンスの夕べが開催され、優雅な社交ダンスが繰り広げられました。

10月19日〜11月5日には、公民館で展示会を開催。27の団体や個人などが、絵画や陶芸、短歌など、日頃の文化活動の成果を発表し、訪れた方々の目を楽しませていました。



展示された作品に見入る来場者